

訪問リハビリ↑たより

今年も猛暑・酷暑の日が続き、熱中症対策が必須となっております。当事業所でも、訪問時の室温の確認・調整や身体状態の確認、暑さ指数に応じたリハビリ内容の検討などを行なっています。また、この時期は屋外での活動が制限されるため活動量が低下し体力低下につながる例も多くみられます。利用者様の中には、ショッピングモール等冷房の効いた涼しい場所で歩くなど、暑さ対策をしながら体力を維持するための工夫されている方もいらっしゃいます。テレビを見ている時間、つまみながら足踏みをするなど、ご自宅で出来る運動なども提案していければと思います。

リハの視点

「スプリント・上肢装具」

【スプリントとは？】

手指や手関節、肘関節などの保護、変形予防、機能補助を目的に用いられる**装具**です。熱を加えて形を変えられる素材を用い、目的に応じその人の手の形に合わせて作成します。

【どんな目的で使用する？】

- ①**固定・支持**：炎症のある組織に対して患部を固定することで炎症の鎮静化を図ります
- ②**保護・予防**：関節の変形を予防します（リウマチなど）
- ③**機能の代償**：麻痺や筋力低下によって失われた機能を補います（末梢神経麻痺など）

【どうやって作成する？】

①義肢装具士が作成

医師の診断→依頼書→義肢装具士が採型→作成→仮合わせ→完成→医師が装着を確認
※医師が治療上必要性を認めた場合、公的医療保険の対象となります。一旦全額を支払い、保険者に請求することで自己負担割合に応じた額が還付されます。

②作業療法士等が作成

リハビリの一環として作業療法士等が作成。医療機関等によって材料費などを請求する場合があります。



●**カックアップスプリント**●
手首を反らす方向（背屈）で固定。
橈骨神経麻痺等で手が反らせない（下垂手）場合や、骨折後などに使用。

●**短対立スプリント**●
親指と他の指を向き合う形で保つ。
親指の安静を保つために使用する場合も。



作業療法士
種沢

利用者さんとの

あゆみ ~リハビリの記録~

No.20 T様「橈骨神経麻痺に対してのスプリント」

T様

男性

疾患名：右橈骨神経麻痺

ご希望「右手を使って食事をしたり、文字が書けるようになりたい」

【身体機能】

右橈骨神経麻痺により、手首を反らせない**“下垂手”**の状態。麻痺により指を伸ばしたり、親指を外側に開くことも困難。指を曲げる（つまむ）力も少ない。

※身体構造的に、手首を反らすと指が曲がりやすく、手を下向きにすると指が伸びやすくなります。



“下垂手”のイメージ

【日常生活への影響】

スプーンやペンをつまむ力が弱い
スプーンを口元まで持ってこれない
食事は利き手ではない左手を使用。書字は困難。

【リハビリ評価】

機能評価後、**仮のスプリント**を装着。
スプーンやペンを握れることを確認。
医師へ報告・医師から装具作成依頼



【義肢装具士と連携】

訪問対応が可能な義肢装具士へ連絡。
医師の診察、依頼書作成後に採型（型どり）。
採型に立ち会い、**手首の設定角度**などを確認。

採型の様子 →
手に石膏包帯を巻いているところ。



【装具の完成・使用】

仮合わせで微調整後、完成。
右手で食事が食べられました！
文字も書け、練習にも意欲的な様子でした。



右手で
食べています

リハビリでは装具有り・無しでの手の動作を評価。
装具が無い方がつかみやすい形状もあり、
今後は手や指の使い方を練習します。



文字も
書けるよう
になりました

利用者様の許可を得て掲載しています。

原田病院 訪問リハビリ事業所
TEL：04-2997-8433 FAX:04-2997-8434 （担当：種沢）
営業日：月曜～金曜 9:00～17:15
営業地域：入間市全域、狭山市・飯能市の一部

介護保険及び医療保険での訪問リハビリが可能です。

原田病院 訪問リハビリは
「やってみたい、できるようになりたい」を支援します！

